

技術点 45 ポイント

個人 団体

プロフェッショナリズム 8 ポイント

備品の整頓と衛生 4 ポイント

- サウナ室内の整理整頓と清潔さ
- サウナ室内のタオルやバケツは整頓され、清潔であるか
- どこに何が置いてあるか、把握しているか
- 衛生ルールを守っているか(汗を拭く際に乾いたタオルを使用、など)

演技中の減点

- 備品を落とす
- 危険な備品の使い方(火、ドライアイスなど。審査員間で協議の上、減点)
- ショー最中のプロ意識のない行動
- 【減点】
- スクリプトの提出遅れ(1 割減点)
- パフォーマンスのテーマ、使用するアロマなどの情報提供の遅れ(1 割減点)

パフォーマンス 4 ポイント

- カリスマ性とパフォーマンス
- 立ち居振るまい：観客とのアイコンタクトやつながり、声の大きさ、安全で制御されたパフォーマンス、自身の体調管理など
- 【減点】
- アフグース後に横になるなど自身の体調や健康状態を崩している

時間的な減点

- 時間制限
- 演技時間：12分～15分
- サウナ室不在時間：最大45秒
- 【減点】
- 演技時間の超過30秒につき1割減点、2分超過で失格
- 準備時間の超過、またはサウナ室不在時間の超過30秒につき0.5割減点

熱の上昇と配分 12 ポイント

熱の上昇 5 ポイント

- パフォーマンス全体を通しての熱の上昇
- ショーが進むにつれて熱を上昇させているか
- 最後に降り注ぐ熱気(ヒートシャワー)が届いたか
- スタートから熱を上げすぎて、それ以上の上昇がないか(2割減点)

- 熱管理の快適性
- 熱すぎて退出する観客がないか(減点)
- 最後は寒すぎず、冷たいシャワーを浴びたくなるほど温度上昇したか

熱の配分 5 ポイント

- 特にクラシックテクニックに関して
- クラシックテクニックで熱は感じられたか
- サウナ室全体に熱が届いているか

熱の快適性 2 ポイント

- サウナ室全体の熱の感じ方
- サウナ室の状態に応じて熱を調整しているか
- 心地よい熱さの熱を生み出しているか

扇ぎのテクニック 15 ポイント

クラシックテクニック 5 ポイント

- 習得度
- クラシックテクニック(両手でタオルを振る技、ヘリコプター)を習得しているか
- タオルさばきのクオリティの高さ

音楽との調和 2 ポイント

- ストーリーにあった感情で届いているか
- タオルの振りは、音楽の雰囲気やリズムに合っているか

スムーズな移行 2 ポイント

- スムーズな移行
- クラシックテクニックとショーテクニック間の移行はスムーズであるか

ショーテクニック 6 ポイント

- 習得度(片手、両手、歩きながらの2枚のタオル、投げ、キャッチ、オープンタオルなど)
- テクニックはストーリーの雰囲気や合っているか
- タオルさばきのクオリティの高さ

減点

- 【減点】
- タオルを落とす度に0.5割減点
- 落としたりタオルを使用する度に0.5割減点
- ※落としたタオルを再度使うことは、プロ意識の欠如、不衛生な行為とみなす

香りの使い方と量 10 ポイント

香りの認識 4 ポイント

- 最低でも3種類の天然アロマを認識できるか(エッセンシャルオイル、お香、燻など)
- 審査員の好みではなく、香りの強さを判断
- 自然に心地よく香るか、香りが過剰に強すぎないか

創造性とクオリティ 3 ポイント

- テーマにあった香りであるか
- 特別な組み合わせであるか
- 創造性のある香りの使い方をしているか
- 創造した香りがシーンや雰囲気合っているか

水と氷の使用 3 ポイント

- 水や氷、香りを適切に使っているか
- 【減点】
- 不衛生または安全ではない水、氷、アロマの使い方

減点

- 【減点】
- 人工的な製品の使用は最大5割減点
- 審査員は個人的な嗜好による審査はしない

芸術点 30 ポイント / 45 ポイント

個人 団体

テーマとショーの構成 30 ポイント

ショーの構成とストーリー展開 8 ポイント

- ショーのクオリティ
- 国際的に誰もが理解できるストーリーであるか
- テーマ全体は明確で理解しやすいか
- テーマに一貫性があり、ビジョンがショー全体を通して保たれているか
- キャラクターは作り込まれているか
- ストーリー展開は盛り上がりつつあるものになっているか

オープニング・クロージング 2 ポイント

- プロ意識を持ち、印象的なショーの始まりと終わりだったか
- 始まりと終わりは明確であったか
- 拍手の際にはサウナ室に留まり、観客を外で見送ったか

雰囲気 5 ポイント

- 観客の心をつかんだか
- 観客の注意を持続させているか、それとも一時的なものか
- 特定の観客の盛り上げによって作られた雰囲気に注意すること

創造性と革新性 3 ポイント

- ショーは新しく、革新的で、独創的だったか
- 映画や本、既存の物語の一部や模倣ではないか
- 過去のアフグースの焼き直しではないか
- アフグースマスター独自の創造的な工夫はあるか

舞台小道具・衣装の要素 4 ポイント

- ショーの要素が明確でテーマに合っているか
- 使用した衣装、装飾、道具のクオリティの高さ
- 用意したものはすべて使い、ショーにおいて意味がある役割を果たしているか
- 数ではなくクオリティが重要

音響、照明、視覚効果 4 ポイント

- 音質 / 音量・吹き替え・照明
- 照明は効果的だったか
- 視覚効果演出(ドライアイス、火、特殊効果など)のクオリティと使い方はどうか
- 視覚効果演出などはストーリーを盛り上げていたか
- 音はきれいに聞こえ、音量もバランスが取れていたか

演技力 4 ポイント

- 演技のクオリティ
- 始まりから終わりまで、そのキャラクターになりきっているか
- リアリティのある演技か
- 演技はショーを盛り上げていたか

チームスピリッツ 団体のみ 15 ポイント

ハーモニー(調和) 3 ポイント

- タオル技術などメンバー間の違いがあっても調和が取れているか
- メンバー全員がちゃんと役割を担っているか

シンクロ(同調) 4 ポイント

- テクニックやアフグースなど一緒に行う部分でのシンクロができているか

意思疎通 4 ポイント

- タオルの投げ・受け渡し、小道具の受け渡しの意思疎通はスムーズにできているか

振付 4 ポイント

- サウナ室の空間を効果的に使っているか
- ステップや動きは、音楽やリズムに適切に合っているか